

## IV. 令和6年度後期 岸和田サテライト開講授業

### 1. 大学院授業科目

授業科目名 (英語表記)	東南アジア経済 (Southeast Asian Economic Development)		
単位数	1	授業形態	講義・演習
担当教員	岡部 美砂		
開講	岸和田サテライト	区分	大学院
実施日・時間	第1回：10月10日(木) 18:00～21:00	第3回：10月24日(木) 18:00～21:00	
	第2回：10月17日(木) 18:00～21:00	第4回：10月31日(木) 18:00～21:00	
<p><b>【授業の概要・ねらい】</b></p> <p>アジア通貨危機や世界金融危機を乗り越えて、著しく成長する中国経済の影響を受けつつ、東南アジア諸国で形成されるASEANは、東アジア地域連携のハブ的な役割を果たしてきました。本講義では、東アジアの地域経済協力の要としての役割が期待されるASEANによる、地域経済統合に向けた取り組みと、その現状(貿易・直接投資構造の変化、サービス分野の自由化、技術移転・人的資源の協力体制等)に関して、開発経済学・国際貿易理論の分野を中心に多くの研究論文をサーベイしながら学びます。また、東南アジア各国の多様な経済発展過程について、世界経済全体とともに概観することで、今後の東アジア地域経済の展望を考えます。</p>			
<p><b>【授業計画】</b></p> <p>第1回 イントロダクション、講義のねらいと進め方、主な分析枠組みと文献の解説</p> <p>第2回～4回 地域経済統合とASEAN経済共同体、ASEANの貿易・直接投資、 グローバルバリューチェーンへの参加、ASEANの国際インフラ開発の経済効果、 ASEANの域内所得水準格差</p> <p>国別ケーススタディ1…インドネシア経済 国別ケーススタディ2…ベトナム経済 国別ケーススタディ3…カンボジア経済</p>			
			
<p><b>【到達目標】</b></p> <p>東南アジア地域および各国経済の発展過程と現状に関する重要文献をサーベイし、諸課題に対して経済学的な視点から議論できる。</p>			
<p><b>【成績評価の方法・基準】</b></p> <p>レポート(60%)および議論への貢献度(40%)で評価します。</p>			
<p><b>【教科書・参考書・参考文献】</b></p> <p>適宜、課題とする論文(和文・英文)を事前にMoodle等を通じて指示・配布します。</p>			
<p><b>【履修上の注意・メッセージ】</b></p> <p>この授業は岸和田サテライトで開講します。現地もしくはオンラインで受講してください。</p> <p>受講生には国際経済学の最新論文を数多く読んで理解することを求めます。国際経済学、特に国際貿易理論やミクロ経済学の知識は必須です。必ず事前に履修または自習しておいてください。また、使用する論文や資料は英文のものがほとんどです。英文資料が読めることが求められます。</p>			
<p><b>【履修する上で必要な事項】</b></p> <p>事前に参考文献(英文、論文)を数多く指定しますので、かならず毎回の講義までに読んでおくことが求められます。</p>			
<p><b>【履修を推奨する関連科目】</b></p> <p>国際経済学</p>			
<p><b>【授業時間外学修についての指示】</b></p> <p>事前に指定された参考文献(論文)を十分に読んで予習することが求められます。各論文の内容に沿って、経済数学等の参考書を用いて事前に十分な予習しておいてください。</p>			
<p><b>【その他連絡事項】</b></p> <p>ミクロ経済学および経済数学の知識が必要です。必ず事前に履修または自習しておくこと。使用する論文や資料は英文のものがほとんどですので、英文資料が読めることが求められます。経済学の基礎知識がない人は基礎的な経済学(ミクロ経済学、経済数学)をまず履修するか、または十分に自習した後にこの講義を履修してください。</p>			
<p><b>【授業理解を深める方法】</b></p> <p>受講生は自身の関心に沿った担当テーマに沿って指示された論文等を事前に読んだうえで解説を行う発表形式で進めます。</p>			